

混戦ムードも地元の武藤龍生を抜てき

関東地区でのリレーGIIIの夜の部は、西武園競輪場で「ブルーウイングナイトレース」が、3月12日～15日の4日間のシリーズで開催される。地元武藤龍生をはじめ、山崎芳仁、守澤太志、岩本俊介、志智俊夫、取鳥雄吾、小倉竜二、阿部将大ら、ビッグ開催でも名の通った実力者たちが、全国の各地区から集まる。傑出した選手が不在で、それぞれの力が拮抗。シリーズの流れ次第では、どの地区にも優勝のチャンスはありそうだ。それだけに激戦は必至で、初日から目が離せない。

ホームバンクのGIIIに気持ちが入る武藤龍生を中心に、木村皆斗、長島大介らが、総力を結集して関東勢にシリーズの流れを呼び込む。全日本選抜では特選スタートの武藤だったが、



武藤龍生

7⑨⑤②着とアドバンテージを生かせずに二次予選で敗退。1月の大宮記念での落車の影響も少なからずあったのと、セッティング面がかみ合わなかったことが大きな要因。しかしながら、シリーズを追うごとに感覚を取り戻して、最終日は上々の伸びを見せていた。ホームの西武園が舞台なら、バンクのツボも心得ていて抜かりなく勝ち上がる。木村、長島らと息を合わせた連係から、差し脚を伸ばして悲願のGIII初優勝を思い入れの深い西武園で遂

げたい。近況はF1が主戦場ながらも、勝ち星を量産している木村が、関東勢の追い込み陣にとって頼みの綱だ。2月の奈良記念2日目は落車に見舞われたが、すぐに小松島でV奪取すると、続く伊東を3連勝の完全優勝。落車の影響を感じさせない戦績を残している。さらに戦法の幅を広げている長島もいて、厚みのあるラインができあがれば、関東勢が有利。

場見規、嶋津拓弥らがいて、南関東のメンバー構成次第では、求められる役割も変わってくるが、ラインの先頭を務めても優勝争いを演じる力は持っている。取鳥雄吾、小倉竜二を軸とした中四国勢も、他地区を一蹴できるだけのものがある。全日本選抜では一次予選を1着でクリアした取鳥だが、2日目以降は精彩を欠いた。いつグレードレースを優勝してもおかしくない脚力がある取鳥にとっては、レースとシリーズの流りにスムーズに乗れることが鍵になる。ペテランの小倉は、さすがの判断力とコース取りは健在。



岩本俊介

岩本俊介は、昨年S級S班で様々な立ち位置をこなしながら、2度のビッグ優出を果たした。ためめぬ努力とS班での経験を糧に、まだまだ進化している。昨年12月の落車からブランクがあり、2月からの復帰になったものの、怪我自体の影響はほぼなさそう。道

昨年振るわなかった阿部将大だが、一昨年の3度のGIII優勝の実績を誇っている。直近の豊橋では1年以上ぶりの優勝を3連勝で飾り、リズムも良く侮れない。むらな面もあるが一撃の魅力ある脇本勇希と山本伸一の近畿勢や志智俊夫も軽視はできない。



山崎芳仁

選手名	登録地	期別	競走得点	級別	氏名	登録地	期別	競走得点	級別
阿部将大	大分	117期	108.50	S1	志智俊夫	岐阜	70期	106.40	S2
小倉竜二	徳島	77期	111.00	S1	松田治之	大阪	73期	100.30	S2
取鳥雄吾	徳島	107期	106.68	S1	小倉竜二	徳島	77期	110.00	S2
脇本勇希	福井	115期	105.70	S1	湊聖二	徳島	86期	100.00	S2
岩本俊介	千葉	94期	109.25	S1	山崎芳仁	福島	88期	112.63	S2
武藤龍生	埼玉	98期	111.06	S1	五日市誠	青森	89期	103.69	S2
木村皆斗	茨城	119期	107.27	S1	飯野祐太	福島	90期	106.62	S2
山崎芳仁	福島	88期	112.63	S2	岩本俊介	千葉	94期	109.25	S2
守澤太志	秋田	96期	111.21	S1	守澤太志	秋田	96期	111.21	S2
					磯田旭	栃木	96期	99.29	S2
					長島大介	栃木	96期	107.73	S2
					柿澤大貴	長野	97期	105.33	S2
					武藤龍生	埼玉	98期	111.06	S2
					山本伸一	奈良	101期	106.00	S2
					嶋津拓弥	神奈川	103期	108.86	S2
					長尾拳太	岐阜	103期	101.68	S2
					市橋可優人	福岡	103期	102.90	S2
					取鳥雄吾	岡山	107期	106.68	S2
					池野健太	兵庫	109期	96.93	S2
					林慶次郎	福岡	111期	101.22	S2
					黒沢征治	埼玉	113期	104.45	S2
					上田堯弥	熊本	113期	100.48	S2
					脇本勇希	福井	115期	105.70	S2
					道場晃規	静岡	117期	106.95	S2
					阿部将大	大分	117期	108.50	S2
					木村皆斗	茨城	119期	107.27	S2
					黒瀬浩太郎	広島	123期	104.40	S2
					藤原誠	岐阜	69期	94.13	S2
					小橋明紀	青森	73期	95.76	S2
					成清貴之	千葉	73期	99.19	S2
					齊藤竜也	神奈川	73期	98.91	S2
					丸山啓一	静岡	74期	97.62	S2
					開坂秀明	青森	79期	96.46	S2
					佐藤真一	東京	79期	99.25	S2
					野田源一	福岡	81期	105.38	S2
					西田雅志	広島	82期	94.33	S2
					菅原晃	大分	85期	102.65	S2
					海老根恵太	千葉	86期	103.96	S2
					上田裕和	三重	86期	97.86	S2
					松岡健介	兵庫	87期	97.44	S2
					中国和剛	福岡	89期	94.59	S2
					早坂秀悟	茨城	90期	97.50	S2
					宿口潤平	埼玉	91期	98.12	S2
					柴崎俊光	三重	91期	100.70	S2
					戸田洋平	岡山	92期	94.92	S2
					小谷実	京都	93期	94.11	S2
					栗田貴徳	愛媛	93期	89.90	S2
					坂本篤史	青森	94期	98.16	S2
					武藤篤弘	埼玉	95期	97.42	S2
					上原龍	長野	95期	95.35	S2
					杉本正隆	茨城	96期	104.90	S2
					松尾透	福岡	96期	98.59	S2
					中田雄喜	福島	97期	100.15	S2
					川口聖二	岐阜	103期	104.19	S2
					神田龍	三重	105期	98.19	S2
					伊藤慶太郎	埼玉	107期	99.63	S2
					大石剣士	静岡	109期	102.17	S2
					大石崇晴	大阪	109期	101.86	S2
					木村幸希	広島	109期	96.41	S2
					瀬戸栄作	長崎	109期	98.76	S2
					瓜生崇智	熊本	109期	102.11	S2
					出澤拓也	神奈川	111期	91.78	S2
					吉田智哉	愛媛	111期	93.54	S2
					藤根俊貴	岩手	113期	96.62	S2
					佐々木堅次	福島	113期	98.83	S2
					河合佑弥	東京	113期	100.80	S2
					磯島成介	青森	115期	100.08	S2
					田中大我	奈良	115期	104.40	S2
					阪本和也	長崎	115期	102.90	S2
					藤田周磨	埼玉	117期	97.00	S2

選手名	登録地	期別	競走得点	級別	氏名	登録地	期別	競走得点	級別
岡田亮太	東京	117期	93.67	S2	徳田匠	京都	119期	96.85	S2
徳田匠	京都	119期	96.85	S2	山根将太	岡山	119期	97.00	S2
山根将太	岡山	119期	97.00	S2	比佐宝太	福島	121期	95.69	S2
比佐宝太	福島	121期	95.69	S2	治田知也	新潟	121期	99.38	S2
治田知也	新潟	121期	99.38	S2	昼田達哉	岡山	121期	101.43	S2
昼田達哉	岡山	121期	101.43	S2	室井蓮太郎	徳島	121期	104.97	S2
室井蓮太郎	徳島	121期	104.97	S2	梅崎隆介	長崎	121期	100.67	S2
梅崎隆介	長崎	121期	100.67	S2	河崎正晴	熊本	121期	102.19	S2
河崎正晴	熊本	121期	102.19	S2	山田駿斗	千葉	123期	95.16	S2
山田駿斗	千葉	123期	95.16	S2	久田朔	大阪	125期	95.28	S2
久田朔	大阪	125期	95.28	S2					

※2026年3月3日時点

磯島 成介 (青森/115期)

連勝で締めた1月平記念の最終日では、不慣れな番手をこなしてチャンスをモノにした。まだS級優勝の経験はないが、直近の取手をオール2着の準V。決勝は山崎歩夢の6番手まくりに付け切った。



伊藤 慶太郎 (埼玉/107期)

A級1、2班戦ながらも、地元の当所は完全Vを遂げている好相性のバンク。直近の静岡記念では、打鐘先行での押し切りを含む2連対。9車立てにも対応した走りなら、今シリーズも期待が膨らむ。



田中 大我 (奈良/115期)

2月の地元、奈良記念は二次予選敗退も、3日目は逃げ切りで白星を挙げて気を吐いた。続く小松島では、3日間すべてバックを取る内容の濃い走りで1②⑤着。久々の決勝進出と近況のリズムも悪くない。



ガールズケイリン

児玉碧衣と太田りゆが激突!!



児玉 碧衣

ナイターGIIIを盛り上げるガールズ戦も普通開催にはもったいない強力メンバーによって覇が競われる。今年に入って勝ち放しの児玉碧衣と、G1の女子王座戦への出場がなかったこともあって昨年10月から27連勝中の太田りゆが雌雄を決する。難しいが、本命は児玉。グランプリから自転車車を換え、それに合わせて乗車フォームも踏み方もガラッと変えた児玉はまだ完成形ではないにも関わらずこの強さ。さらなる伸びしろも本人は実感してモチベーションが高まっているし、打倒佐藤水菜が目標ならここで立ち止まっていられない。どっしり構えてからの快速まくりがトレードマークの太田に対して、より仕掛けの幅が広く、踏み直しもしっかりしている強みを発揮する。



太田 りゆ

が優勝し、太田は捕まえ切れずに準Vに終わったものの、この時期の太田は競輪に専念するようになって、組み立ても含めてまだ色々と試行錯誤していた。競輪になじんで必勝パターンをつかんだ今なら完全Vが4回と相性抜群な地元戦だし逆転は十分考えられる。

注目は前記の2人に集まるだろうが、柳原真緒も戦績は全く見劣りしない。柳原も今年はや選での2着が1回ある以外は全部勝っている。まくりが冴えており、組み立て次第では好勝負可能だろう。児玉も太田とも対戦自体は多く、手の内は分かっている。

一方、実績ある石井貴子は負傷欠場中で、ここまでに復帰がかなっても児玉らに対抗していくのはまだ厳しそう。太田とともに地元戦となる飯田風音のダッシュ戦と、ムラが解消しパワーアップ顕著な西脇美唯奈がどこまで優勝争いに食い込んでいけるか。差し脚切れるは永ゆうきも伏兵で警戒。

主力選手プロフィール							選手能力値		戦法別勝利数		直近12場所成績					
選手名	所属	期	年齢	身長	体重	得意脚	機動力	ダッシュ	差し脚	上連対	下1着	出走回数	1着	2着	3着	他
是永ゆうき	大分	126期	22	158	55	①③⑥	34	39	19	4	0	35	1	5	9	20
児玉碧衣	福岡	108期	30	165	57	⑤⑦⑩	77	97	20	1	8	35	3	1	1	3
柳原真緒	山梨	114期	28	160	56	⑦⑩⑪	62	79	23	1	2	36	2	7	6	1
西脇美唯奈	京都	120期	24	155	52	⑨⑩⑪	45	58	32	0	3	36	4	9	11	12
石井貴子	千葉	106期	36	165	54	⑦⑨⑩⑫	49	60	42	15	5	34	1	9	6	8
飯田風音	埼玉	120期	24	155	54	⑦⑨⑩⑫	47	57	43	1	6	36	2	3	4	1
太田りゆ	奈良	112期	31	165	57	③④⑤	64	88	22	55	3	34	1	1	1	1

